

# 日向入郷地域における糖尿病対策の 取組と今後に向けた実態調査 —第1報—

○川平陽子 1) 本武明子 2) 飯干麻子 3)  
高妻真子 4) 鮫島祐子 1)  
日向保健所 1) 、健康増進課 2) 、  
日向保健所兼高鍋保健所 3) 、中央保健所 4)

# はじめに

## 日向入郷地域糖尿病対策推進協議会

### 【目的】

医療、地域保健及び職域保健の連携を強化し、日向入郷地域における糖尿病の発症及び糖尿病性腎症の重症化予防を推進する

### 【長期目標】

- 糖尿病有病者の増加抑制・減少
- 未治療・治療中断者の減少
- 年間新規透析導入患者の減少



## \* 糖尿病連携手帳 \*

公益社団法人日本糖尿病協会が作成

検査値や治療内容、合併症の検査所見などを記録でき、他機関の情報共有、連携の役割を担うツール

### 〈令和2年度～令和4年度の取組〉

- ① 専門医－かかりつけ医－市町村の連携強化
- ② 糖尿病連携手帳、生活習慣病重症化予防連絡票の積極的な活用に向けての周知及び活用ルール策定
- ③ 特定健診受診率向上及び糖尿病未治療者への受診勧奨の取組強化

# 令和元年度 ○糖尿病対策研修会の開催



# 令和2年度 ○手帳活用普及チラシ作成 ○手帳活用等に関する調査

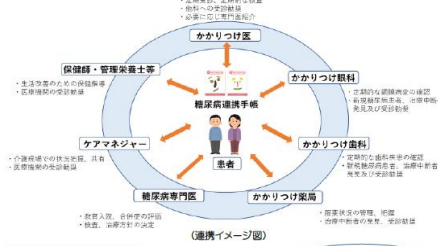
## 医療機関従事者の皆様へ 糖尿病連携手帳を活用していますか？ ～ 患者さんが糖尿病と共に生きる豊かな毎日のために ～

### 糖尿病連携手帳の活用意義

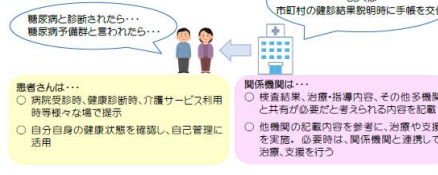
ご存じのとおり糖尿病及びその合併症は、長期にわたる継続治療が必要であり、かかりつけ医だけでなく、糖尿病専門医、歯科医師や眼科医、看護師、薬剤師、地域医療関係者（保健師、管理栄養士、ケアマネジャー等）が、役割を分担した地域連携が重要です。『糖尿病連携手帳』は、患者さん自身の生活習慣の自己管理をもとより、治療方針や検査結果を共有した職種間の連携強化にもなる、糖尿病の重症化及び発症予防するための重要なツールとして、公益社団法人日本糖尿病協会が作成し、無料で配布しています。



### 糖尿病連携手帳を活用し、多職種連携で重症化予防、発症予防に取り組みましょう



### 交付から活用までの流れ



- ### 手帳活用のメリット
- ◎ 患者さん自分で情報管理や経過観察ができ、自己管理のために活用できる
  - ◎ 必要な情報が一目でわかり、治療目標ばかりでなく、患者さん自身が糖尿病であっても、豊かな生活を送れるようサポートできる
  - ◎ 複数の医療機関を受診する際、医療機関の間での検査結果や治療方針等の情報共有が可能となり、今後の治療、支援に活かせる
  - ◎ 急な受診、入院の際に、どの職種でもこれまでの経過を大まかに把握でき、問診の手間が省ける

### 手帳記載内容 ※ 令和2年4月に改定(第4版)

患者さんの基本情報や関係機関の基本情報、定期検査結果や眼科・歯科受診時の状況、その他関連検査結果や年間の検査計画、連携に必要な情報を記載することができます。



- ### 手帳の入手方法
- ◎ 公益社団法人日本糖尿病協会へ直接申し込み  
TEL: 03-3514-1721  
FAX: 03-3514-1725  
Mail: office@ittakyo.or.jp
  - ◎ 製薬会社を通じて入手  
取扱いがあるかは、各製薬会社へお問合せください。
- ※ 総務省日本郵政保証センター(郵便番号) 開封日時 TEL: 0992-52-5101

今後の日向入郷地域糖尿病対策推進協議会における糖尿病対策の取組の方向性について検討

# 対象と方法

## 対象：アンケートⅠ

令和元年度糖尿病対策研修会受講者 74名

## アンケートⅡ

管内薬局・居宅介護支援事業所・訪問看護  
ステーションの糖尿病患者支援代表者 94名

期間：令和3年1月

## 調査内容：アンケートⅠ・Ⅱ共通

手帳の活用状況、手帳周知ちらしの周知度  
手帳を活用した他機関連携のために必要なこと

## アンケートⅠのみ

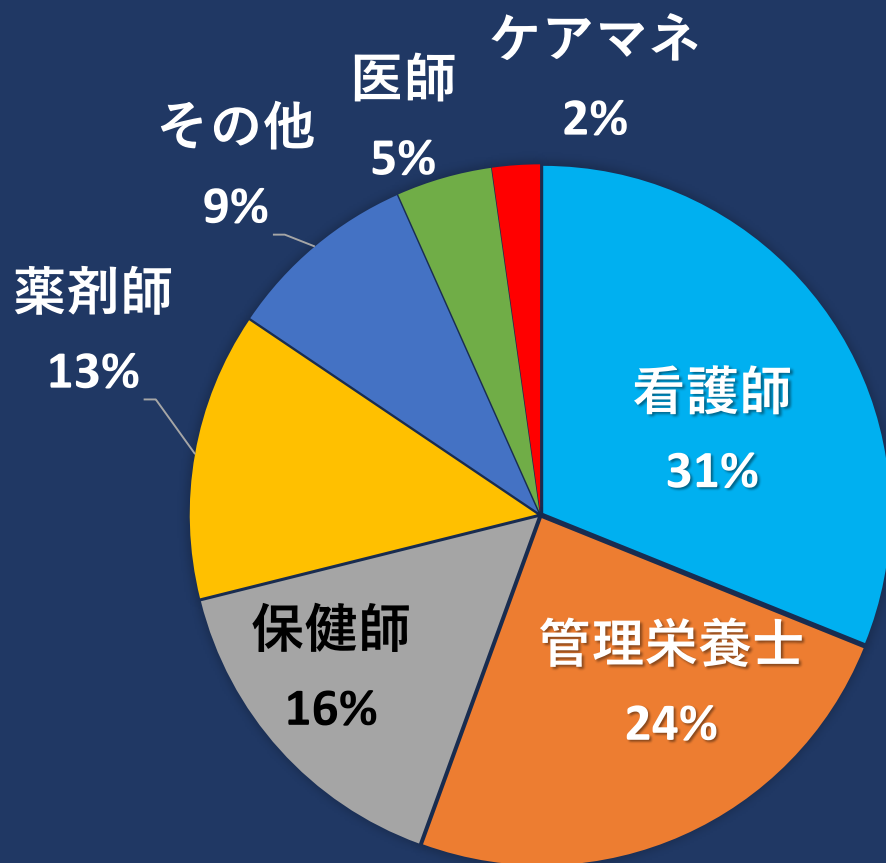
令和元年度研修会の評価

# 結 果

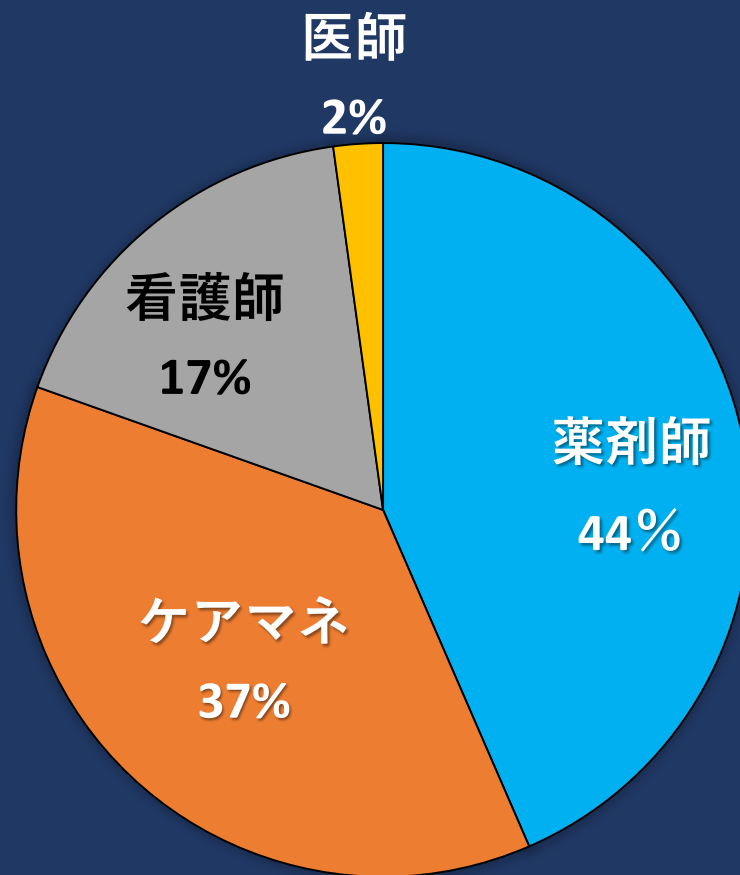
回収率：アンケートⅠ 60.8% (45名/74名)  
アンケートⅡ 48.9% (46名/94名)

# 表1 回答職種

アンケート I (N=45)

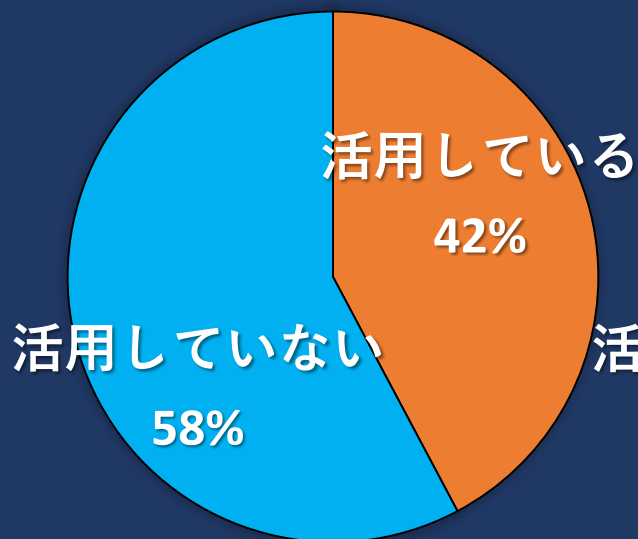


アンケート II (N=46)

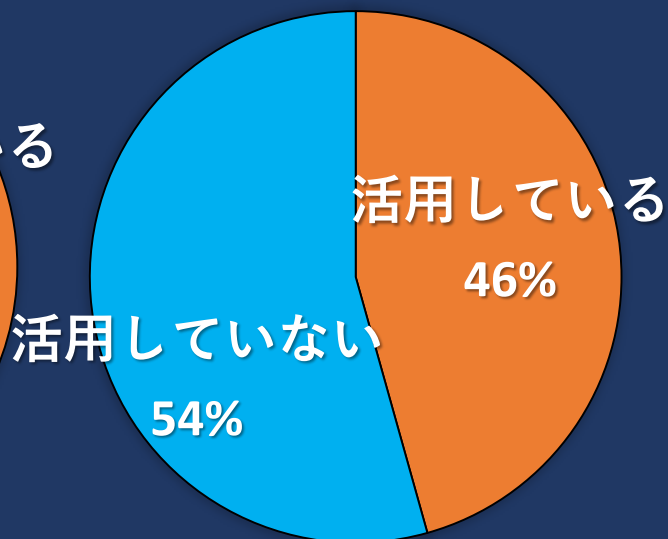


## 表2 手帳の活用の有無

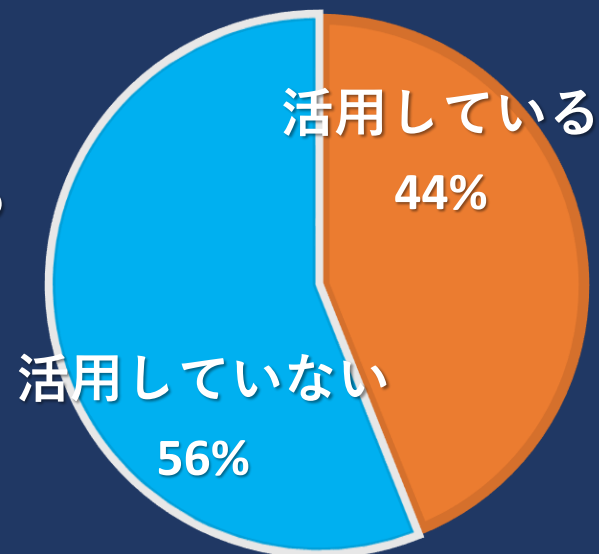
アンケートⅠ  
(N=45)



アンケートⅡ  
(N=46)



全体  
(N=91)





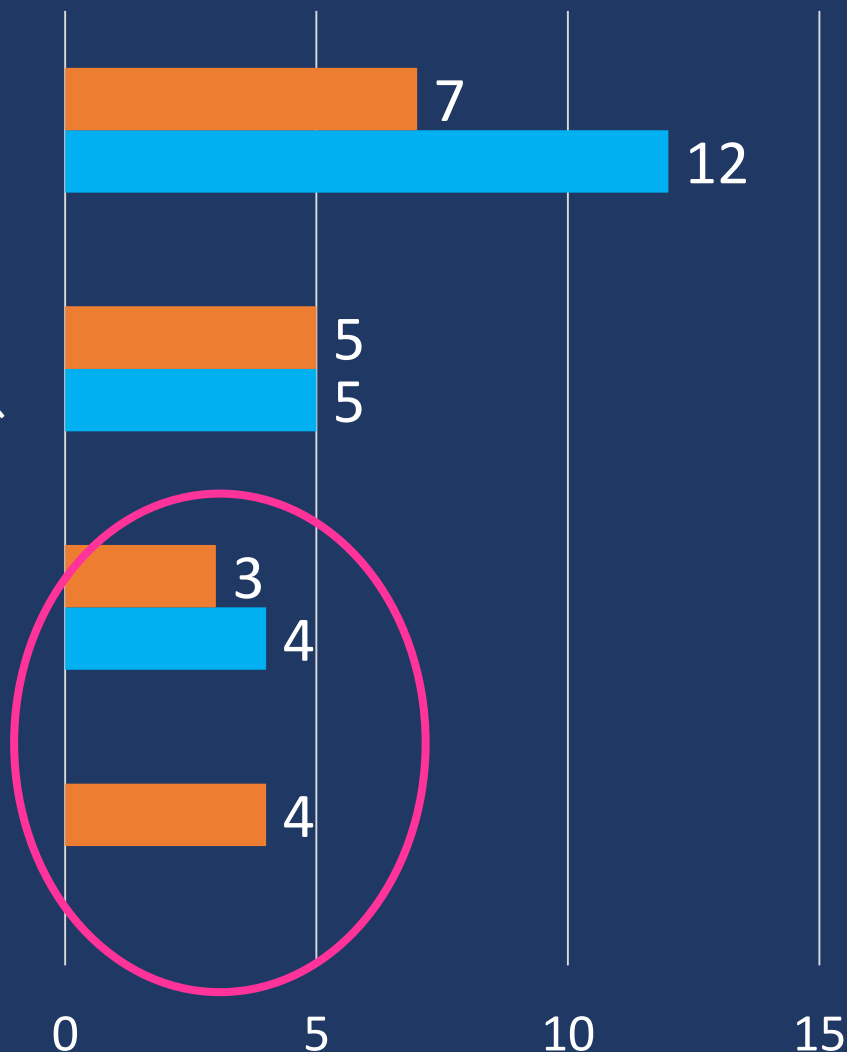
# 表3 具体的な活用方法

## 他機関での検査結果や指導内容の確認のみ

手帳の記載内容をもとに患者へ療養指導、教育を行っているが、手帳には記載していない

## 自機関での検査結果の記載のみ

手帳の記載内容をもとに患者へ療養指導・教育を行い、その内容を手帳に**記載している**

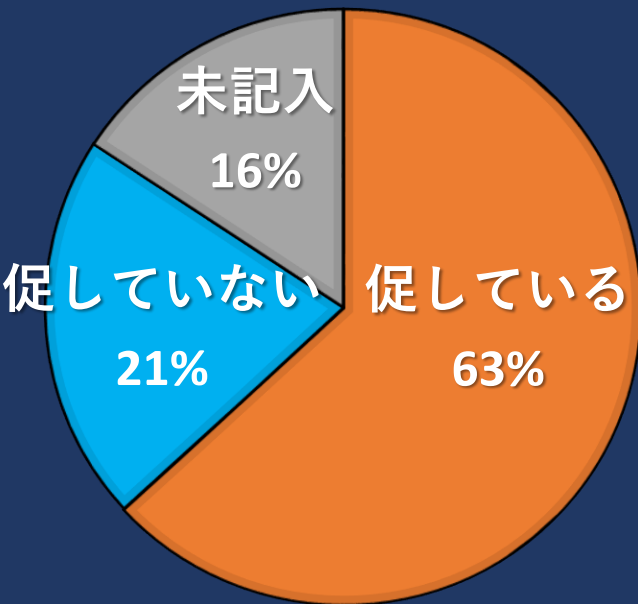


■ アンケート I (N=19)

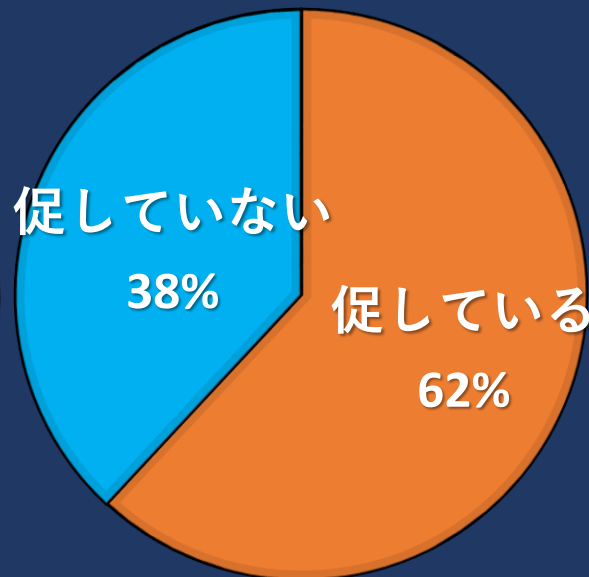
■ アンケート II (N=21)

# 表5 患者・利用者への手帳促し

アンケートⅠ  
(N = 19)



アンケートⅡ  
(N = 21)



全体  
(N = 40)

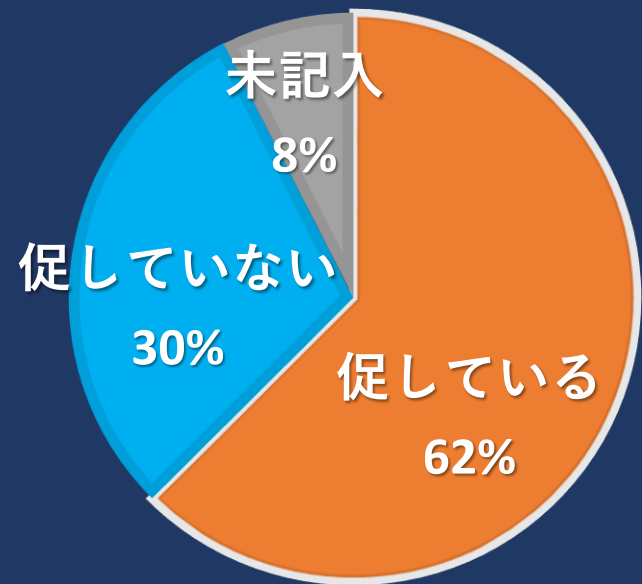
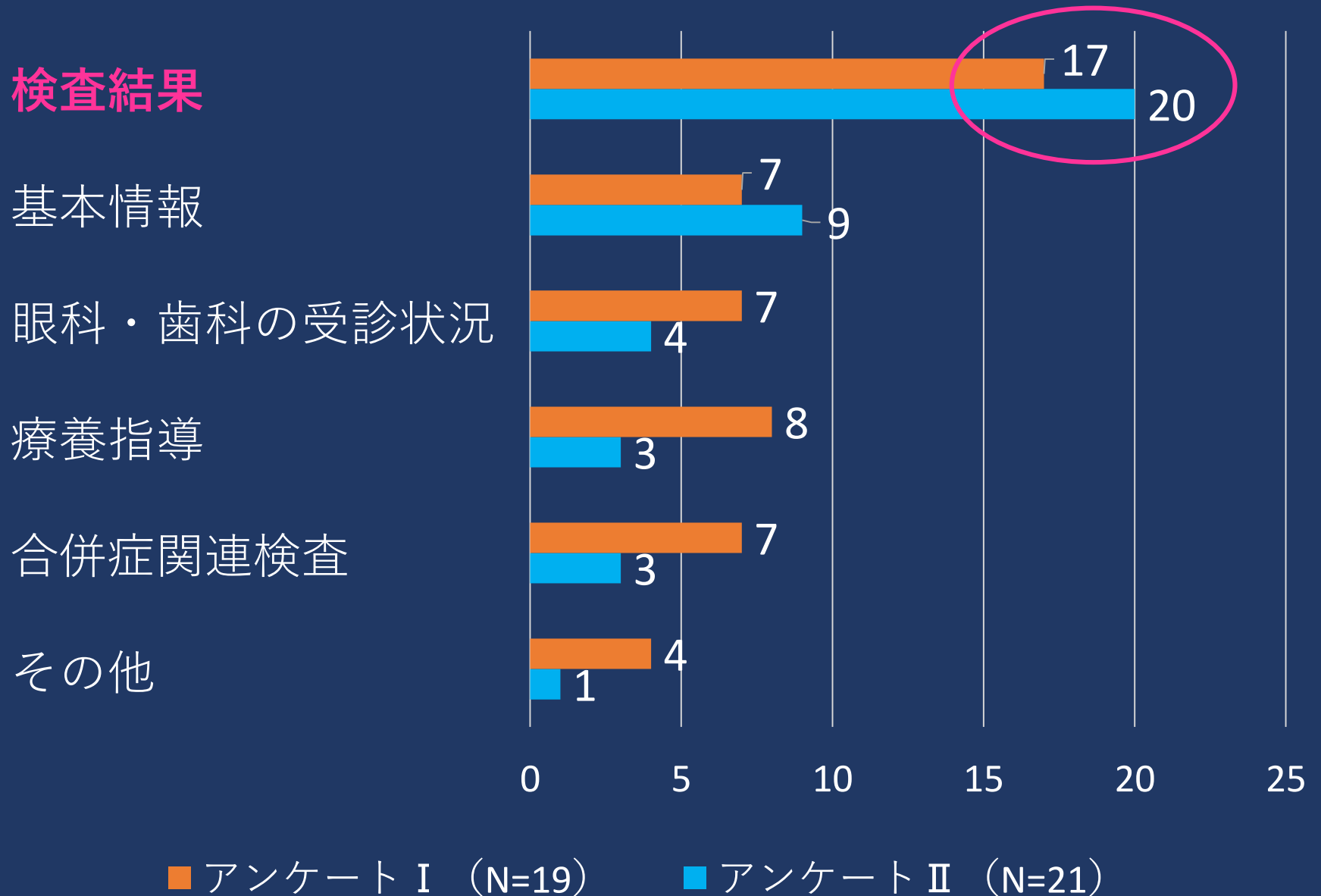
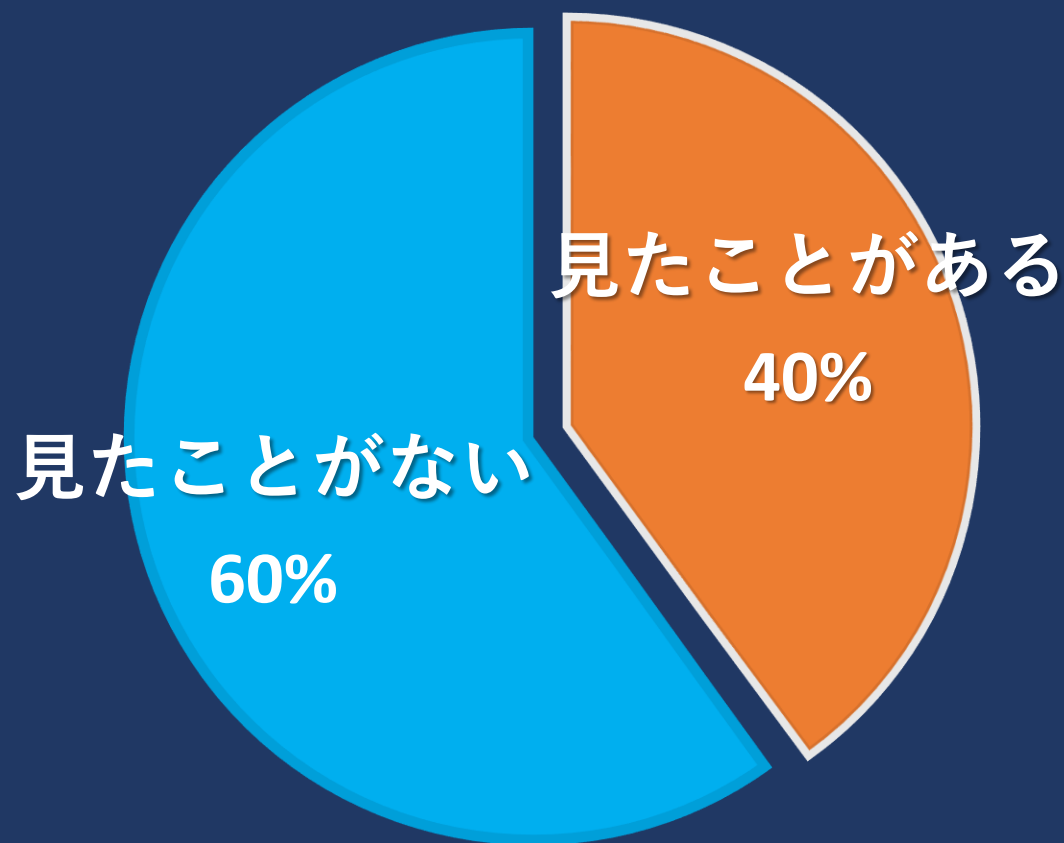


表6 参考にしたり記載している項目（複数回答あり）



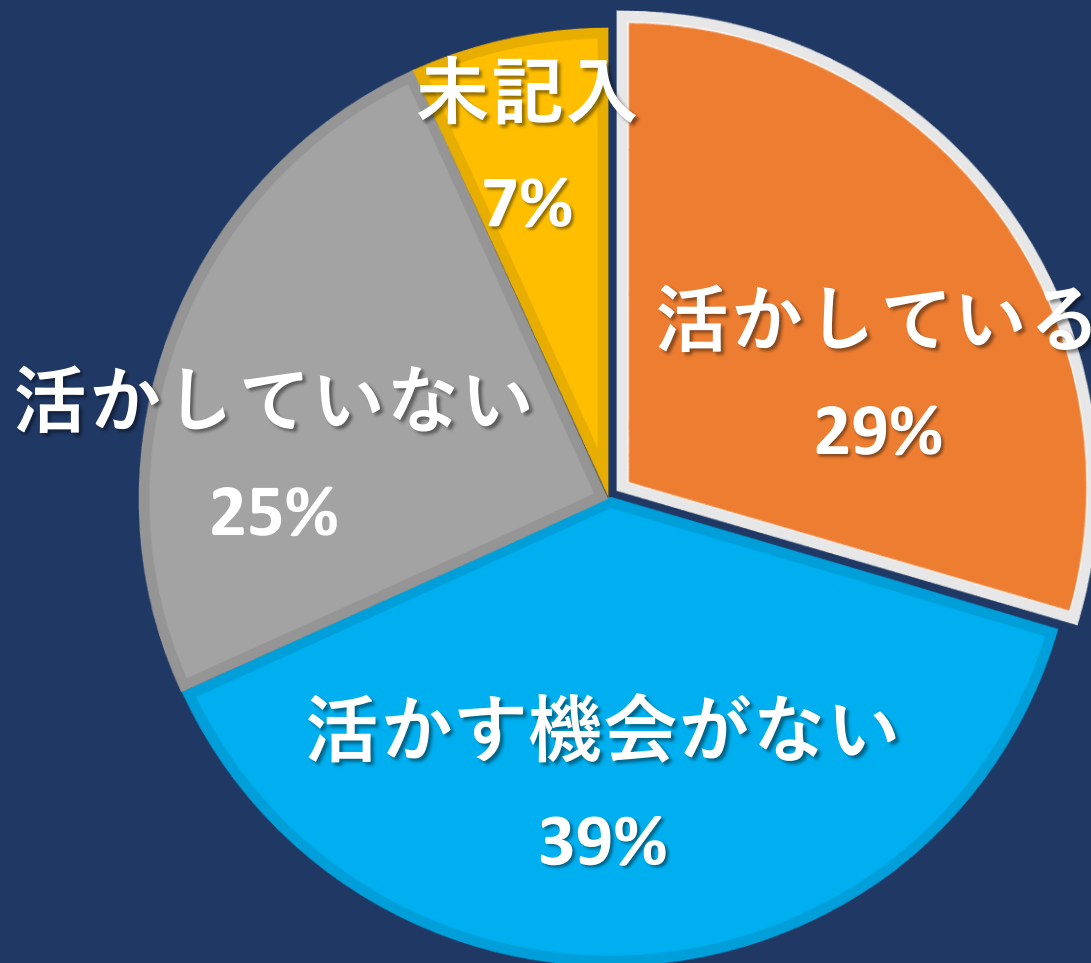
# 表4 手帳活用周知チラシの周知率

アンケート I (N = 45)



# 表7 令和元年度研修会後の現場での活用状況

アンケート I (N=45)



## 表8 令和元年度研修会内容の活用具体例

- 訪問時、手帳を確認し支援に活かしている
- 受診時に手帳を持参し提出するように本人へ声かけしている
- 患者の話を傾聴し、出来ていることを褒め、実行が継続できるよう支援している

## 表9 手帳活用促進を図るためにできること

患者・利用者 に対して	<ul style="list-style-type: none"><li>○受診する時は必ず持参するよう促す</li><li>○他院、眼科・歯科医院でも見せるよう声かけ</li><li>○利用者の中で持参して来られる方はいない 認識があるのか疑問</li></ul>
医療機関 に対して	<ul style="list-style-type: none"><li>○医師、薬剤師、看護師、栄養士、事務等の 関係者が手帳の重要性を理解する必要がある</li></ul>
行政に対して	<ul style="list-style-type: none"><li>○手帳の内容は良いので更に活用を広めること が必要</li><li>○活用についての勉強会などを開催する</li></ul>

考 察

と

今後の取組



# 手帳の活用

- 支援者へ手帳の周知及び活用を促すための働きかけが必要
- 患者・利用者に対して手帳を周知するとともに、支援者からも活用を促す声かけをしてもらうよう周知することが必要
- 支援者へ自機関での検査結果や関わり内容の記載を促すことが必要

## 手帳の周知チラシ

支援者に対して効果的な手帳の周知を継続的に行う必要がある

## 令和元年度研修会の評価

手帳の活用促進、支援者のスキルアップに有効な研修会であった

今後も様々なテーマで研修会を開催し、支援者のスキルアップを図る必要がある

# 糖尿病連携手帳活用促進のために

## 支援者に対して

- ✓ 支援者の資質向上及び手帳活用促進を目的に研修会の開催を継続
- ✓ 支援者が統一した認識で手帳を活用できるよう使い方ルールをまとめた媒体を作成、周知

## 患者・利用者に対して

- ✓ チラシやポスター等を活用し様々な場で手帳について周知する

日向入郷地域の更なる糖尿病対策の強化

- \* 糖尿病有病者の増加抑制・減少
- \* 未治療・治療中断者の減少
- \* 年間新規透析導入患者の減少